

平成23年度

事業報告書

公益財団法人かわさき市民活動センター

平成23年度に公益財団法人かわさき市民活動センターが実施した事業等は、次のとおりです。

I 財団の概況

1 沿革

昭和57年3月31日：「財団法人川崎ボランティアセンター」設立許可

昭和57年4月 8日：「財団法人川崎ボランティアセンター」設立登記

平成15年4月 1日：「財団法人かわさき市民活動センター」変更登記

平成22年6月18日：「公益財団法人かわさき市民活動センター」移行認定

平成22年7月 1日：「公益財団法人かわさき市民活動センター」設立登記

2 目的（定款第3条）

この法人は、川崎市における市民活動の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与することを目的とする。

3 主な事業

（1）市民活動の推進

- ◇ 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業
- ◇ 市民活動の促進・支援事業
- ◇ 市民活動に関する人材育成及び相談事業

（2）青少年の健全育成

- ◇ こども文化センターの管理運営事業
- ◇ わくわくプラザの管理運営事業
- ◇ 地域子育て支援センター事業（児童館型）

参考（定款 抜粋）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業
- (2) 市民活動に関する調査・研究事業
- (3) 市民活動に関する人材育成及び相談事業
- (4) 市民活動の促進・支援事業
- (5) 青少年の健全育成に関する事業
- (6) 青少年施設の管理運営の受託
- (7) 関係機関・関係団体等との連携
- (8) その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

2 前項の事業については、川崎市において行うものとする。

4 行政庁に関する事項（平成24年3月31日現在）

神奈川県（保健福祉局地域保健福祉部福祉監査指導課）

5 主たる事務所（平成24年3月31日現在）

川崎市中原区新丸子東3-1100-12

6 役員等に関する事項（平成24年3月31日現在）

(1) 理事（10名）

理事長 小倉敬子（代表理事）
副理事長 柏木靖男、難波一尚
常務理事 太田直（代表理事）
理事 飯田和子、小原良、小宮山健治
福田武雄、牧野田恵美子、安岡信一

(2) 監事（2名）

宮洋世紀、小菅猛

(3) 評議員（9名）

岡村修、齊藤準、三枝博男
佐藤知久、菅原陽子、竹井斎
仁藤公子、東田乗治、前田成東

II 事業の概要

平成23年度は、東日本大震災への対応など市民活動の真価が問われた年でありました。また、指定管理業務の2巡目のスタートの年でもありましたが、財団を挙げてそれぞれの事業の推進に取り組んできました。

事業の概要については、次のとおりです。

1 市民活動推進事業

(1) 情報提供・啓発事業

ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民が相互に情報交換を図るための情報紙として、毎月各10,000部を発行し、市内公共機関、関係団体及び賛助会員などに配布しました。

また、視力障がいのある方へ情報を提供するため音声テープを作成しました。

イ 「市民発 地域をつくる人・活動」の連載

市民記者が独自の目線で市民活動団体などを紹介するコラム「市民発 地域をつくる人・活動」を、神奈川新聞社の協力を得て、毎週土曜日に掲載しました。

ウ 財団ホームページの充実

東日本大震災に関連する災害ボランティア活動や市民活動に関する最新情報の掲載、助成金制度及び市民活動保険制度の周知、各種事業の告知など、内容の充実に努めました。また、団体向けに研修や民間助成金などの情報を、電子メールにて隔月で配信しました。

エ ボランティア・市民活動紹介冊子の発行

市内のボランティア・市民活動を紹介する冊子「ボラ・ナビ」を川崎市社会福祉協議会と共同で、計5,000部発行し、センター及び市内各社会福祉協議会、公共施設、市内中学・高校などに配布し、市民活動への参加の促進を図りました。

オ かわさき市民活動ポータルサイト（応援ナビかわさき）の運営

川崎市内における市民活動のポータル（入口）サイトとして、イベント・講座情報、ボランティア募集情報、団体詳細情報、民間助成金情報などを掲載して、内容の充実に努めました。

(2) 活動促進事業

ア ボランティア・市民活動団体の育成諸活動

会議室・印刷室・フリースペースや市民活動ブースなど、次のとおり延べ4, 871団体(23, 469人)の方に活用されました。

日 程	内 容	前年度	
通 年	(1) 登録団体数（新規）	61 団体	59 団体
	(2) 会議室 A・B 利用団体数	894 団体	905 団体
	(3) 印刷機 利用団体数	465 団体	557 団体
	(4) フリースペース・パソコン 利用団体数	3,155 団体	3,317 団体
	(5) 市民活動ブース 利用団体数 (延べ利用団体数)	5 団体 357 団体)	5 団体
	(6) 後援名義承諾数	16 団体	11 団体

イ 企業等の社会貢献活動への支援

企業などが持つ遊休資源等の市民活動への有効活用を図り、併せて企業のCSRの促進を図るため、「市民活動支援のための資源循環システムの促進事業」を実施し、18団体に20台のノートパソコンを提供しました。

ウ 市民活動交流会の開催

市民活動団体と企業・教育機関・行政機関等との交流促進を目的に、7月29日に専修大学サテライトキャンパスで同大学・ネットワーク情報学部の福富忠和教授の講演などを行い、団体や学生など49名の参加がありました。

エ かわさきボランティア・市民活動フェアの開催

平成24年1月28日、中原市民館及びかわさき市民活動センターにて同フェア実行委員会、川崎市社会福祉協議会との共催で開催し、市民団体パネル展示、団体企画、災害ボランティア活動紹介、東北地方物産展などを行い、1,700名の参加がありました。

オ インターンシップ等（就業体験）の受け入れ

8月に茨城大学から1名（12日間）、1月に専修大学KSコミュニティ・ビジネスアカデミーから1名（3日間）、そして、2月に自由が丘産能短期大学から1名（10日間）の

研修生を受け入れました。

カ 川崎市社会功労賞への推薦

20年にわたる活動で、地域福祉に顕著な功績を残している朗読ボランティアグループ「さんざし」を推薦し、同賞を受賞することになりました。

(3) 研修・相談事業

ア 各種研修講座の開催

(ア) ボランティア入門講座

小・中・高校生を対象として、ボランティア活動に関する講義や体験活動などの内容で、「チャレボラ2011」と題し、市・区社会福祉協議会などと実施し、33プログラムで239名（うちセンターは2プログラムを実施し30名）の参加がありました。

(イ) 市民活動基礎講座

これから地域で市民活動を始めたいと考えている方を対象として、地域で活動している団体での活動体験を通し、市民活動への参加のきっかけとする講座を開催し、13名の参加がありました。

(ウ) ボランティア・市民活動団体パワーアップセミナー

組織マネジメントの視点での研修を、次のとおり10回開催し、149名の参加がありました。

日程	内容	参加者	会場等
4月23日	(1)「組織強化大作戦」～トップのためのマネジメント大研究～ 講師：手塚明美氏（藤沢市市民活動推進センター）	9名	かわさき市民活動センター
5月14日	(2)「説得より、ナットク！」～合意形成が図れる会議にするために～ 講師：竹迫和代氏（参画はぐくみ工房）	15名	かわさき市民活動センター
6月18日	(3)「伝わることばを作るコツ」～活動内容を一言で！キャッチコピーの作り方～ 講師：渡辺潤平氏（コピーライター 渡辺潤平社）	36名	かわさき市民活動センター
7月9日	(4)「イマドキ情報発信」～ブログとツイッターの活用～ 講師：山田泰久氏（日本財団）	17名	かわさき市民活動センター
8月20日	(5)「NPO はつながりで生き残る！」～何を大切にしながらのか～ 講師：竹迫和代氏（参画はぐくみ工房） 市民活動実践者：ほっとけない・おと絵がたり・のぼりとゆうえん隊	15名	かわさき市民活動センター
9月3日	(6)「実務者のための初歩の会計」～A子さんのドタバタ会計ストーリー～ 講師：益尾博子氏（東京 JAPAN 税理士法人神奈川事務所 税理士）	22名	かわさき市民活動センター

10月1日	(7)「市民活動にもビジネスの視点を！」～コミュニティビジネスから学ぶ～ 講師：藁品孝久氏 (NPO 法人湘南スタイル理事長)	9名	川崎市社会福祉協議会
11月5日	(8)「団体の基礎体力強化戦略―1」～弱点を知る！強みを活かす！～ 講師：松本修一氏 (V・マネジメント代表)	10名	川崎市社会福祉協議会
1月14日	(9)「団体の基礎体力強化戦略―2」～改造が必要なのは、組織？意識？～ 講師：松本修一氏 (V・マネジメント代表)	7名	川崎市社会福祉協議会
2月4日	(10)「活動報告書作成のコツ」～振り返りと、次年度に向かって～ 講師：松本修一氏 (V・マネジメント代表)	9名	川崎市社会福祉協議会

(エ) 災害ボランティア養成講座

災害時におけるボランティアの養成を目的に、7月16日～18日に開催し、22名の参加がありました。また、高津消防署の救急隊員による、普通救命3時間講習を実施し、市民救命士の資格証を全員に授与されました。

(オ) 市民記者養成講座の開催

「市民による、市民のための情報発信」を目的に、専門家から取材や編集の基礎を習得する講座として、2月25日に開催し、15名の参加がありました。

(カ) 専門講座の開催

市民活動団体の資金獲得についての方策を考えるため、2月26日に(株)アーツ・マーケティングの山本純子代表を講師として、「ファンドレイジングセミナー～クラウド・ファンディング入門」と題した講座を開催し、27名の参加がありました。

(キ) 市民活動相談業務の維持・拡充

ボランティア・市民活動の相談に対応する相談員及び職員などの資質向上のため、2月8日にNPO法人笑顔せたがやの山崎富一事務局長を講師として、「ボランティア・コーディネート基礎」と題した講座を開催し、21名の参加がありました。

(ク) NPO法人の手續に関する相談の実施ほか

川崎市との共催により、NPO法人の手續に関する相談窓口を毎月第3水曜に実施しました。また、NPO法人設立事務説明会及びNPO法人関係事務説明会を計4回開催しました。

イ 職員及び役員の派遣状況

各団体の要請に基づき、次のとおり職員及び役員を講師として派遣しました。

(ア) 職員派遣状況

回	日程	内容(テーマ等)	対象者	開催場所
1	5月14日	市民活動補償制度説明	下小田中交通部連絡協議会 会員 10名	下小田中町内会館
2	5月19日	保育ボランティア研修 保育ボランティアとは?	市民 15名	プラザ橘
3	7月21日	ボランティア活動とは	なかはらパンジー体操普及 及ボランティア 20名	中原区役所別館2階

4	7月23日	親子防災キャンプ（夜間避難所訓練） 災害ボランティアについて	障がい児親子、災害ボランティア 30名	県立高津養護学校
5	7月26日	中高生ボランティア講座 ボランティアって!?	中学生・高校生 4名	宮前市民館
6	9月15日	ボランティアってなあに	中学生 114名	中原中学校
7	9月27日	社会教育基礎研修 市民から見た市民館	社会教育関係職員 15名	中原市民館
8	10月29日	災害時障がい者支援《防災シミュレーション訓練》	障がい児親子、災害ボランティア 30名	県立高津養護学校
9	11月4日	シニアの社会参加支援事業（入門コース①）「誰にでもできる地域への貢献」	原則 50 歳以上の関心のある方 5名	多摩市民館第5会議室
10	11月10日	ボランティア活動とは	犬・ねこ愛護ボランティア17名	川崎市役所第4庁舎
11	12月15日・2月9日	市民エンパワーメント研修	一般市民 1名・4名	多摩市民館第4会議室
12	12月17日	花と緑のまちづくり講座 （川崎市公園緑地協会主催） 市民活動補償制度説明	一般市民 28名	緑化センター会議室
13	1月18日	すくすく子育てボランティア養成講座	一般市民 19名	多摩区保健福祉センター第1相談室
14	1月25日	川崎区社会福祉協議会 役員研修会 市民活動補償制度説明	区社協役員 21名	教育文化会館第5会議室
15	1月31日	市民エンパワーメント養成講座	一般市民 8名	宮前市民館第3会議室
16	2月13日 2月22日 3月9日 3月14日 3月19日 3月21日 3月22日	公園緑地愛護会連絡協議会・管理運営協議会事務連絡会 市民活動補償制度説明	登録団体 73名 登録団体 76名 登録団体 69名 登録団体 72名 登録団体 63名 登録団体 66名 登録団体 54名	多摩区役所 高津区役所 中原区役所 麻生区役所 宮前区役所 川崎区役所 幸区役所
17	2月18日	KS ソーシャル・ビジネス・アカデミー「リレー講義 市民ビジネス」	KS アカデミー受講生 20名	専修大学サテライトキャンパス

(イ) 役員派遣状況

回	日程	内容（テーマ等）	対象者	開催場所
1	5月21日	里山ボランティア育成講座 「ボランティアについて考える」	市民	川崎市公園緑地協議会

2	7月23日	日本語（識字）ボランティア研修 「はじめよう ボランティア」	市民	多摩市民館
3	8月19日	小田原市民活動団体ネットワーク形成事業 皆で創ろう 私たちのまち 基調講演 「地域の連携からできる新しいコミュニティ」	小田原 市民	生涯学習セン ターけやき
4	9月3日	イベント段取り入門講座 第1回「イベント企画のポイント」	市民	麻生区役所
5	9月4日	専修大学 KSアカデミー公開講座 講演「地域を知り、地域を創ろう」 ～市民活動の現状とさまざまな連携と協働～	市民	専修大学サテ ライトキャン パス
6	9月10日	イベント段取り入門講座 第2回「事業の準備から実施まで」	市民	麻生区役所
7	10月5日	宮前区地域人材活用研修 市民と行政との協働と地域コミュニティの活性 化 ～これからのまちづくり～	職員	宮前市民館
8	11月17日	市民活動スキルアップ講座 イベント段取り入門講座1「企画と予算のポイン ト」	市民	厚木市勤労福 祉センター
9	11月24日	市民活動スキルアップ講座 イベント段取り入門講座2「ワークショップ」	市民	厚木市勤労福 祉センター
10	11月28日	生き生きリーダーフォローアップ講座 市民活動をより効果的に行うために	市民	エポック中原
11	12月1日	市民活動スキルアップ講座 イベント段取り入門講座3「準備から実施まで」	市民	厚木市勤労福 祉センター
12	12月13日	キャリア形成と自己実現 「女性とキャリア」	学生	茨城大学
13	2月7日	市民エンパワーメント養成講座 事例紹介と意見交換	市民	宮前市民館
14	2月11日	目指そうアクティブシニア達のセミナー 「シニア世代の市民参加」	市民	やまゆり
15	2月16日	シリーズ高津に生きる・この人と語ろう 「市民活動の極意」	市民	高津市民館
16	2月21日	おと絵がたり体験講座・ライフスタイルを考える 「市民活動はじめの一步・地域でのつながり」	市民	中原市民館
17	3月13日	シニア講座 「第7回 今後の活動に向けて」	市民	高津市民館
18	3月19日	運動普及推進教育等事業（フォロー教室）「自分 も相手も気持ちよくボランティアをするために」	市民	中原保健福祉 センター

ウ ボランティア・市民活動相談

市民活動相談は、窓口や電話による相談のほか、市民活動経験者である相談員による市民活動に関する相談をセンター窓口で実施しました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容	前年度	
通 年	ボランティア・市民活動相談	162件	140件
	内訳 市民活動相談員対応	29件	46件
	職員対応	133件	94件

エ 総合相談のための職員研修

職員としての専門的知識の習得とともに資質の向上を図るため、各種研修に参加させました。

(4) 連絡調整事業

ア 各種会議等の開催

(ア) 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

共催事業の調整などを議題として会議を2回開催しました。

(イ) 川崎防災ボランティアネットワークへの活動支援

平常時から活動分野を超えて、情報交換と連携強化を図るため、定例会を4回開催しました。

(ウ) かわさき市民公益活動助成金交付団体交流会の開催

平成23年4月17日に平成22年度受給団体を対象に行った「かわさき市民公益活動助成金公開事業報告会」と同時開催し、報告会で興味・関心をもった団体、類似の活動を行う団体同士が意見や情報を交換し、交流できるスペースを設けました。今年度は、平成22年度の受給団体の事業成果を交流スペースに掲示し、選考を予定している平成23年度申請団体への参加も呼びかけました。

(エ) 大学連携事業

専修大学ネットワーク情報学部との連携による市民活動団体への広報支援事業を実施し、10団体のPR映像作品、リーフレットの制作など広報支援を行いました。

イ 行政との連携

市民活動・ボランティア活動の調整を図るため、市民・こども局と4回、各区役所（川崎・幸・高津・麻生）と4回情報交換を行いました。また、各区担当職員を配置して、区役所・市民館・区社協等と情報交換を行いました。

(5) 助成制度運営事業

かわさき市民公益活動助成金制度として、新しく活動を開始した団体が行う事業を対象としたスタートアップ助成と、これまでの活動を充実または拡大し行う事業及び類似の活動を新たに企画し行う事業を対象としたステップアップ助成A、B、Cの4つのメニューに基づき、42団体に助成を行いました。事前相談を通じて申請書提出までのフォローアップを強化しました。

また、かわさき市民公益活動助成金制度の充実を目的として「かわさき市民公益活動助成金制度検討プロジェクト」を開催しました。制度運営も8年目に入り、実態に即した効果的な運用を図るために、審査基準などの審査のあり方や人件費の助成のあり方について検討予定です。なお、助成内容及び審査委員会の開催状況等は以下のとおりです。

日 程	助 成 内 容	確定交付額
通 年	平成 23 年度かわさき市民公益活動助成金 【募集期間】 2 月 10 日～3 月 10 日 【審査方法】 書類審査及び公開プレゼンテーション ※審査委員会開催状況は下記参照 【結 果】 (1) スタートアップ助成 申請 10 件／概算交付 8 件／確定 8 件 (2) ステップアップ助成 申請 45 件／概算交付 34 件／確定 34 件	16,442,465 円
	※ 審査委員会開催状況 ・ 第 1 回 (4/17) 公開事業報告会 (22 年度分) ・ 第 2 回 (4/27) 第一次選考 (書類審査) ・ 第 3-1、2 回 (5/21、22) 第二次選考 (公開プレゼンテーション) ・ 第 4 回 (9/5) 助成金返還について (22 年度分) ・ 第 5 回 (3/16) 23 年度進捗及び公開事業報告会、24 年度募集について	
	制度検討プロジェクト ・ 全 3 回開催 (8/9、10/5、10/24)	

(6) 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度運営事業

市民が安心してボランティア・市民活動に参加できるよう、また活動の活性化が図られるよう、事前登録の必要ない保険制度として川崎市から受託し、次のとおり前年度より引き続き運営しました。

日 程	内 容	備 考
通 年	ボランティア事故申請件数 38 件	対象件数 38 件 (傷害 37 件・損害賠償 1 件) 取り下げ 5 件 保険金支払対象件数 33 件
	保険金支払済額 2,090,400 円	内訳 (発生年度別) 23 年度発生分 1,394,400 円 (24 件分) 22 年度発生分 696,000 円 (7 件分) (1 件未処理)

	市民活動補償制度説明 10回	○下小田中交通部連絡協議会会員 ○花と緑のまちづくり講座受講者 (川崎市公園緑地協会主催) ○川崎区社会福祉協議会役員研修会 ○公園緑地愛護会連絡協議会・ 管理運営協議会事務連絡会(7区) (建設緑政局公園管理課主催)
--	----------------	---

(7) 自主財源の確保

自主財源確保や賛助会費につきましては、次のとおり多くの方々のご協力をいただきました。

日 程	内 容		備 考
通 年	賛助会費団体	336,000 円	賛助会費
	賛助会費個人	235,000 円	・団体 1口 5,000 円
	一般寄附金	86,464 円	・個人 1口 1,000 円
	募金箱等	548 円	

(8) 東日本大震災への対応

ア 一時避難所の運営支援

川崎市は、3月19日に川崎市体育館より移設して「とどろきアリーナ」に避難所を開設しました。その後、避難所が閉鎖される7月31日までの間、センターは、ボランティアの方々の業務割り振りや川崎市を含めた関係機関との連絡・調整の役割を担いました。

その結果、3月19日から4カ月余の期間、延べ人数で市民ボランティア約170名、組織ボランティア(川崎防災ボランティアネットワーク)225名、事務局職員(市民活動センター職員)94名が支援物資の仕分けなど避難所の支援活動を行いました。

また、避難所の閉鎖に伴い、センター等の呼びかけにより、避難所に入所されている方々の新たな生活への激励の気持ちを込めて、昼食会を7月28日に開催し、避難所の入所者20名を含め多くの参加者がありました。

イ 災害ボランティア活動助成金制度の拡充

この度の東日本大震災への対応を図るため、平成23年4月に、要綱を緊急改正し、助成枠の拡大や適用期間を災害発生から1カ月となっていたのを1年に延伸するなどの措置を講じました。実績は次のとおりです。

(ア) 申請団体 15団体

(イ) 助成金額 801,752円

なお、東日本大震災の災害状況を踏まえ、助成対象期間をさらに1年延長する特別措置を講じました。

ウ 義援金活動

被災地域の復旧復興、被災者への支援を行うため3月12日以降当センター窓口で募金箱

を設置し、義援金を募りました。平成24年3月末日現在157,552円のご寄付がありました。

なお、義援金は神奈川県新聞厚生文化事業団に寄託しています。

エ 被災地への支援活動

国際ソロプチミスト川崎からの支援金をもとに、川崎防災ボランティアネットワークが行った被災地（宮城県仙台市宮城野区）への救援物資の輸送活動に協力し、6月7日に職員1名の派遣と輸送車両の提供を行いました。

オ 被災地支援写真展

「療育ねっとわーくかわさき」の主催による被災地岩手県山田町の写真展を、6月13日～19日の期間、フリースペースにて開催しました。

カ 3・11を忘れない（東日本大震災1周年犠牲者追悼イベント）

川崎防災ボランティアネットワークの協力により、3月9日～16日の期間、フリースペースにて活動団体紹介パネル展や活動実施者報告会を開催しました。

キ 公益財団法人社会貢献支援財団「東日本大震災における貢献者表彰」への推薦

川崎災害ボランティアネットワークの団体から顕著な活動を行ってきた「地域ネットワーク推進会議たかつ災害ボラネット」、「復興ボランティアタスクフォース」、「移送さいわい」の3団体を推薦し、表彰されることになりました。

2 青少年健全育成事業

これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ101施設を適切に管理・運営しました。主な取り組みは次のとおりです。

(1) こども文化センター運営事業

ア 快適な居場所づくり

基幹業務として、こども文化センター及びわくわくプラザでは、子どもたちに安全・安心かつ楽しい居場所の提供を行い、児童の健全育成を図りました。

(ア) こども文化センター利用状況の推移

平成23年度の利用者総数は1,477,712名で、乳幼児・小学生・中学生・高校生・成人ともに利用者数は減少しました。利用人数の減少は、受託施設が2減となったことによると考えられます。

	21年度(55館)	22年度(55館)	23年度(53館)	
総利用人数	1,380,450	1,530,018	1,477,712	(-52,306)
乳幼児	178,583	229,591	229,467	(-124)
小学生	656,596	690,465	656,239	(-34,226)
中学生	190,481	204,436	194,586	(-9,850)
高校生	41,880	48,365	47,371	(-994)
成人	312,910	357,161	350,049	(-7,112)
(利用人数/館)	(@25,099)	(@27,819)	(@27,881)	
市民活動利用団体数	10,665	10,377	9,723	(-654)

* 23年度の()内は前年度との差

(イ) わくわくプラザ児童の登録及び利用状況の推移

平成23年度は、当財団が所管する市立101校の在籍児童数62,833名のうち、27,913名が登録、約44%の登録率となります。月間の平均利用児童数は116,709名、1日の平均利用児童数(土曜日を含む)は4,695名、登録児童数の17%でした。平成22年度に比べ登録人数・利用人数の減少は、受託施設が5減となったことによると考えられます。

* 在校児童数及び登録児童数は3月現在の数

年度	在校児童数	登録児童数	登録率	1ヶ月平均利用人数	一日平均利用人数
21年度 (106校)	66,454	28,916 (800)	44%	115,870 (5,985)	4,762 (246)
22年度 (106校)	66,476	28,789 (832)	43%	119,774 (6,418)	4,810 (263)
23年度 (101校)	62,833	27,913 (837)	44%	116,709 (6,221)	4,695 (250)

* ()内は特別な支援を必要とする児童数

イ 乳幼児の子育て支援

平成23年度は、延べ6,933団体（1館平均131団体）の乳幼児サークルが、こども文化センターを利用しました。場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向け行事（親子コンサート・パネルシアター・ベビータッチケア等）、関係諸団体の協力を得た行事（簡単なおやつ講座・子育てセミナー・親子リトミック・食育講座等）、栄養相談や乳幼児身体測定などを開催しました。

地域子育て支援会議等に参加し、情報交換を行うと共に、地域の子育てネットワーク作りにも積極的に関わりました。

ウ 中学生・高校生の利用促進

中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし、異年齢交流行事ほか、様々な工夫を凝らした行事に取り組み、利用の促進を図りました。

また、居場所作りの一環として整備された音楽室のある南河原・宮崎及び白山こども文化センターについては、中学生・高校生の地域音楽活動の拠点として利用の促進を図りました。

音楽室の23年度利用状況は以下のとおりです。（南河原・白山は17年度開設、宮崎は19年度開設）

施設名	年度	利用団体数	利用者人数				
			小学生	中学生	高校生	一般	合計
南河原	21年度	575	120	84	1,136	317	1,657
	22年度	654	30	81	1,105	415	1,631
	23年度	921	32	158	1,515	495	2,200
宮崎	21年度	596	0	36	714	608	1,358
	22年度	475	0	16	587	427	1,030
	23年度	534	6	285	609	464	1,364
白山	21年度	736	13	215	1,293	499	2,020
	22年度	682	72	172	1,304	348	1,896
	23年度	883	13	0	1,530	407	1,950
合計	21年度	1,907	133	335	3,143	1,424	5,035
	22年度	1,811	102	269	2,966	1,190	4,557
	23年度	2,338	51	443	3,654	1,366	5,514

エ 地域活動拠点としての利用推進

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ではありますが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティアや市民活動グループ等に場の提供を行いました。

平成23年度は、延べ22,742団体（1館平均429団体）の利用がありました。活動内容は、会議や打ち合わせのほか、卓球、コーラス、ダンスといった趣味の活動にも利用されており、放課後は子どもたちの囲碁教室などの講師としての協力もありました。

オ 運営協議会の開催

平成23年度も事業推進に向けた主体的な組織として運営協議会を開催し、地域と職員がこども文化センターの様々な課題について協議を行い、932名の運営委員としての参画があり、計314回（各館平均6回）開催されました。

運営協議会が主催・こども文化センターと共催で実施した行事は、「こどもまつり」「さんま祭り」「クリーン作戦」「餅つき大会」等様々で、その他こども文化センターの行事運営・施設利用のルール作り及び地域団体との橋渡し等、その活動は多岐にわたっております。

また、さらに連携を深めるため、区において各館の運営協議会の代表が参加する「区運営委員会」を開催し様々な情報・意見の集約を図り、地域の意見を踏まえ、地域と一体となったこども文化センターの運営に努めました。

カ 不登校児の居場所づくりの取り組み強化

不登校児が来館した際に備え、より適切な対応ができるよう職員のスキルアップを図り、不登校児の居場所づくりに努めました。

キ 児童の安心・安全確保

安心・安全の確保は、当財団の基本としているところであり、日頃からスタッフによる見守りの強化、遊具等の点検強化に取り組むと共に、区ごとに事故ゼロ運動を推進し、一層の事故防止の向上に努め、各区で「事例検討会」を開催し、職員のスキルアップを図りました。

不審者等については、必要に応じて職員が適切な対応がとれるよう不審者情報をタイムリーに各こども文化センターに発信し、安心・安全の確保を図りました。

ク 専門相談員の巡回配置

わくわくプラザにおける特別な支援を必要とする児童登録数は837名で、平成22年度に比べると受託施設数が減少しているにもかかわらず、5名増加しました。

特別な支援を必要とする児童の対応にかかわるスタッフの相談役として、前年度に引き続き4名の元養護学校や小学校校長経験者等を巡回相談員として配置し、様々な相談に的確なアドバイスや指示を与えると共に、スタッフ研修の講師としても活用しました。

ケ わくわくプラザ学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、ボランティアや臨時職員からなる専任アドバイザーを配置し、自学・自習を落ち着いてできる時間と場所を確保して学習タイムを実施しました。

コ 研修制度の充実

研修制度を充実させると共に、経験や役職に応じた研修をタイムリーに実施し、人的サービスの基本となる職員の資質向上を図りました。

(ア) 職員研修の開催

職員の資質の向上のために、研修委員会を組織し、全館・区・グループ・こども文化センター・わくわくプラザ単位で実施計画を策定し、研修の充実に努めました。

・ 財団主催の研修

全館を対象とした研修については、児童厚生一・二級指導資格取得及び新任館長・新任職員の研修を中心に実施しました。現場に即した研修の取り組みでは、館長・職員を対象に、不登校児対応やこどもの人権等をテーマに講演会形式で実施しました。

・ 資格取得研修

児童厚生施設に勤務する職員としての専門的知識の習得を目的として、児童厚生二級指導員の資格取得研修へ参加しました。また、館長の資質の向上を目的として、児童厚生一級指導員資格取得研修及び児童厚生一級指導員特別セミナーへ参加しました。

全正規職員が資格取得することを目標とした児童厚生二級指導員資格については、今年度は4名の職員が資格を取得し、全正規職員の96%が資格取得者となりました。児童厚生一級指導員資格については、今年度は10名の館長が資格を取得し、全正規職員館長の73%が資格取得者となりました。児童厚生一級特別セミナーについては、正規職員館長2名が児童厚生一級特別指導員の資格を取得しました。

・ 各区の研修

各区を単位とした研修は、区の研修委員が研修プログラムを作成し、「DIY研修」「中高生対応」「コミュニケーション研修」等、実務的な項目を各区の実情に応じて取り上げて実施しました。また、主任研修の一環として、主任が講師となる区研修を実施しました。

・ 各館の研修

各館を単位とした研修についても、各区の研修と同じく「応急手当研修」「中高生への対応」「障がい児への対応」「災害時の対応」「食品衛生」など現場の業務に即した具体的かつ実践的な内容としました。

各館では、受講した研修の報告の場として定例的に職員会議や情報交換会等を開催し、職員間の情報の共有化を図りました。

	回	内 容	講 師	対 象	参加人数	会 場
財 団 主 催	1	接遇研修	交流分析士 長谷川 慶子 氏	館長 職員	2 31	中原区役所 502 会議室
	2	新任職員・館長研修	総務課長 青少年事業課長 青少年事業課職員	館長 職員	2 20	本部 A・B 会議室
	3	新任職員・館長研修	市民活動推進課職員 青少年事業課職員 日野社労士事務所 日野 正行 氏	館長 職員	2 20	本部 事務会議室 総合自治会館 事務会議室
	4	普通救命講習	高津消防署員	職員	7	高津消防署

	5	東日本Aブロック児童厚生員等基礎研修会受講者 事前研修会	青少年事業課長 青少年事業課職員	職員	4	財団本部 事務会議室
	6	課長補佐研修（主任研修）人間関係作りトレーニング	中野島こども文化センター 川島 郁子 館長	主任	1 3	中原区役所 507 会議室
	7	東日本Aブロック児童厚生員等 基礎研修会	財団法人児童健全育成推進財団 職員	職員	4	群馬県 前橋市
	8	不登校児受け入れについて（南部）	新丸子こども文化センター 藤原 妙子 館長	職員	3 5	教育文化会館
	9	中堅児童厚生員研修	財団法人児童健全育成推進財団 職員	館長	1 0	東京都 渋谷区
	10	児童厚生一級特別セミナー	財団法人児童健全育成推進財団 職員	館長	7	国立オリンピック記念青少年総合センター
	11	不登校児受け入れについて（北部）	新丸子こども文化センター 藤原 妙子 館長	職員	3 5	高津市民館
	12	新任職員 フォローアップ研修	グループディスカッション	職員	1 6	財団本部 A会議室
	13	課長補佐研修 乳幼児親子の現状と取り組みについて	青少年事業課職員係 石丸 加代子 課長補佐	職員	2 0	小杉こども 文化センター
	14	子どもの人権・男女平等について	川崎市人権男女平等参画室 西山 俊之 氏	館長 職員 臨時職員	4 2 1 2 0	大山街道 ふるさと館
川崎区	1	前向き子育て トリプルP研修	トリプルPジャパン 理事 梅野 裕子 氏	館長	9	川崎区役所 研修資料室
	2	前向き子育てトリプルPを受講して戻し研修	前向き子育てトリプルP 研修 受講者	館長	9	旭町こども 文化センター
	3	主任研修 こどもの情操育成研修 ～仕事をテーマとして～	玉川こども文化センター 中村 美栄子 主任	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 2 5 4 2 0	日進町こども 文化センター
	4	中堅児童厚生員等研修会を受けて研修会	幸こども文化センター 藤本 寿恵 館長	館長 職員	5 3 4	渡田こども 文化センター
	5	主任研修 臨時職員の採用から退職まで研修	青少年事業課 職員係 中村 正信 主任	館長 職員	5 1 8	小田こども 文化センター
	6	児童厚生1級報告会	青少年事業課 幸区運営指導担当 田村 和可子 主査	館長 職員	5 1 8	小田こども 文化センター
	7	DIY 研修	青少年事業課人材育成担当 前原 英司 職員	館長 職員	2 2 1	大師こども 文化センター
	8	前向き子育て トリプルP研修	トリプルPジャパン 理事 梅野 裕子 氏	館長	9	川崎区役所 研修資料室
幸区	1	中学生・高校生対応研修	スクールサポーター 井田 久夫 氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	3 1 4 0 4 4	南河原こども 文化センター
	2	児童厚生1級研修 報告会	南加瀬こども文化センター 中村 博子 館長	館長 職員	4 2 9	南加瀬こども 文化センター
	3	階層別研修 「子どもの対応 ～短所は長所に～」	宮前区運営指導担当 宮野 章子 課長補佐	館長 職員	4 2 9	南加瀬こども 文化センター
	4	主任研修「レクリエーションゲームの基礎～理論と実践～」	宮内こども文化センター 伊藤 知代 主任	館長 職員	2 1 8	南河原こども 文化センター

	5	主任研修「施設の管理について」	青少年事業課施設係 工 徹 主任	館長 職員	2 1 8	南河原こども 文化センター
中原区	1	野外活動における リスクマネジメント	プラムネット株式会社 アウトドア共育事業部 総括リーダー 渡辺直史氏	館長 職員	1 2 3	宮内こども 文化センター
	2	主任研修「労働安全法 に基づき職場の安全を 考える」	住吉こども文化センター 安斎 真紀 主任	館長 職員	1 1 9	住吉こども 文化センター
	3	コーチング	Office Clip-Clop(オフィ スクリップクローブ) 代表 (財)生涯学習開発財団認 定プロフェッショナルコー チ 副島 真由美氏	館長 職員	2 2 3	西加瀬こども 文化センター
	4	主任研修 コンピュー ターリテラシーの向上	新城こども文化センター 會田 樹理 主任	館長 職員	1 1 2	新城こども 文化センター
	5	中堅児童厚生員等研修	1級児童厚生員取得館長	館長 職員	8 2 8	小杉こども 文化センター
	6	主任研修 安全、安心かつ楽しい 居場所作りをめざして	新丸子こども文化センター 寒水 晃世 主任	館長 職員 チーフ	2 1 3 7	新丸子こども 文化センター
	7	チーフ他施設体験研修		チーフ	4 6	中原区内小学 校わくわくプ ラザ
	8	チーフ情報交換会	グループディスカッショ ン・ワークショップ	館長 職員 チーフ	2 9 3 6	住吉こども 文化センター
	9	フラッグフットボール 研修	NPO 法人グラスホッパー 太田 正治 氏	館長 職員 チーフ サポーター	1 1 0 5 3	富士通体育館
高津区	1	コミュニケーション 研修	株式会社ヒューマンスキル 開発センター 坪本 美代子 氏	館長 職員 チーフ	1 1 2 2 5	未長こども 文化センター
	2	児童厚生1級伝達研修 会「魅力ある行事の立 案について」研修	梶ヶ谷こども文化センター 原 久美子 館長	館長 職員	2 2 4	二子こども 文化センター
宮前区	1	中堅児童厚生1級報告 研修	野川こども文化センター 今村 江理子 館長	館長 職員	1 2 2	宮崎こども 文化センター
	2	中堅児童厚生1級報告 研修	平こども文化センター 稲葉 成子 館長	館長 職員	2 2 1	宮崎こども 文化センター
	3	DIY研修	青少年事業課 人材育成担当 前原 英司 職員	館長 職員	3 1 2	宮崎こども 文化センター
	4	中堅児童厚生1級報告 研修	野川こども文化センター 今村 江理子 館長	館長 職員	1 2 2	宮崎こども 文化センター
多摩区	1	こどもの安全教育	こどもの安全教育 総合研究所 宮田 美恵子 氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	5 1 5 2 9 3 8 9	生田出張所
	2	DIY研修	青少年事業課 人材育成担当 前原 英司 職員	館長 職員	4 1 3	三田こども 文化センター
	3	児童厚生1級研修委員 会	三田こども文化センター 藤沖 恵美 館長	館長 職員	6 1 8	三田こども 文化センター
	4	課長補佐研修「第3者 評価について」	錦ヶ丘こども文化センター 山本 啓子 館長	館長 職員	6 1 8	三田こども 文化センター

	5	主任研修「本部体験研修報告会」	錦ヶ丘こども文化センター 奥内 朋江 主任	館長 職員	3 14	錦ヶ丘こども文化センター
	6	主任研修「ブレインストーミング研修」	千代ヶ丘こども文化センター 井上 哲夫 主任	館長 職員	3 14	錦ヶ丘こども文化センター
麻生区	1	児童厚生1級報告会	千代ヶ丘こども文化センター 谷本 真由美 館長	館長 職員	3 11	千代ヶ丘こども文化センター
	2	主任研修「子どもの遊びについてと新聞紙ワークショップ」	柿生こども文化センター 長坂 しげ子 主任	館長 職員	3 11	千代ヶ丘こども文化センター
	3	児童厚生1級報告会	麻生こども文化センター 森山 博美 館長	館長 職員	4 16	麻生こども文化センター
	4	主任研修「けがをしにくい体作り」	東百合丘こども文化センター 古田 智暖 主任	館長 職員	4 16	麻生こども文化センター
	5	D I Y研修「知っておきたいD I Yの基礎知識」	青少年事業課人材育成担当 前原 英司 職員 青少年事業課職員係 中村 正信 主任	館長 職員 パートナー	2 12 7	百合丘こども文化センター

サ 子ども運営会議等の活動促進

こども文化センターで組織した「子ども運営会議」を開催し、子どもたちの意見等を行事に反映させました。平成23年度は延べ697回（各館平均13回）開催し、延べ5,894名（各館平均111名）の参加がありました。

また、わくわくプラザでも「子ども運営会議」を開催し、利用児童の意見等を行事に反映させました。延べ1,323回（各わくわくプラザ平均13回）開催し、延べ44,734名（各わくわくプラザ平均443名）の参加がありました。

実施した主な行事としては、子どもたちの手による「おばけやしき」「ミニ運動会」や提案による「卓球大会」「お楽しみ会」などがありました。

シ 地域関係機関・関係団体との連携の強化

こども文化センター・わくわくプラザの円滑な事業運営を図るため、「学校及び行政機関・各区役所こども支援室・子育て支援センター及び子育て広場・各地域施設利用団体」などの関係機関・団体との共働事業の実施、連携強化を図り、特別な支援を必要とする児童への対応強化を図るため、「発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター」などの関係機関との交流推進、連携強化を行いました。

ス 複数館による合同行事の開催

(ア) 全市にかかわる実施事業

ゴーゴー☆かわさキッズマンカラ大会・BUNBUN ステージ・子どもサミットを通して大会の主旨である子どもの仲間づくりや交流の広がりを促し、「生きる力」「創造性豊かな心」「共感する心」を子ども自身が身につけることができました。

ゲーム・子どもサミット部門は、平成23年12月17日（土）に中原市民館において「マンカラ大会・子どもサミット」と題して実施しました。各館で実施したマンカラ大会の予選参加者は3,359名、各館でエコについて話し合いを行った子どもサミット参加者は1,899名、当日参加308名を合わせると5,566名の子どもたちの参加がありました。

ステージ部門は、平成24年2月25日(土)、高津市民館において「舞台発表 BUNBUN ステージ」と副題をつけて実施しました。ダンス・バンド等、出演18団体(314名)、一般参加者509名で合計959名の参加がありました。

(イ) 各区にかかわる事業

・ 合同行事

各区のこども文化センターが合同で、区内児童の交流と親睦を図ることを目的として地域性を生かした行事を実施しました。

区	実施年月日	内 容	参加人数	会 場
川 崎	平成23年11月26日(土)	第7回川崎区「スマイルフェスタ 2011inKawasaki ゲームDEゴー」	143	富士見中学校
幸	平成24年1月28日(土)	「ハッピー商店街」	117	戸手小学校体育館
中 原	平成24年1月6日(金)	「ウォークラリー」	211	中原平和公園
高 津	平成24年1月28日(土)	高津区クイズde探検隊(ウォークラリー)	152	溝の口南公園 高津地区
宮 前	平成23年11月23日(水)	「ドッジビー大会～みやりんピックシーズン2～」	172	向丘小学校体育館
多 摩	平成23年11月3日(木)	多摩区7館合同行事 「多摩冒険のついで～目指せ! お宝ハンター～」	533	生田緑地(中央広場・しょうぶ園・あじさい山・奥の池付近)
麻 生	平成23年9月10日(土)	麻生キッズ☆フェスティバル2011 ～忍者への道～ ※雨天のため雨プログラム	226	王禅寺ふるさと公園 ※雨天のため各こ文

・ 関係諸機関が主催する行事への参加状況

区役所及び市民館等関係諸機関が主催する行事にも積極的に参加することによって、こども文化センターのPRを行いました。参加した各区の行事は以下のとおりです。

区	実施年月日	内 容	参加人数	会 場
川 崎	平成23年10月28日(金)	川崎区いきいき健康づくり・子育てフェスタ	630	教育文化会館
幸	平成23年9月24日(土)	多文化フェスタさいわい2011	600	幸市民館
	平成23年10月15日(土)～16日(日)	幸区民祭	800	幸区役所・幸市民館
	平成24年2月4日(土)	子育てフェアさいわい	600	幸市民館
中 原	平成23年11月26日(土)	なかはら子ども未来フェスタ	2,500	中原区役所
高 津	平成23年11月12日(土)	高津区こども・子育てフェスタ	1,500	高津市民館
	平成23年9月30日(金)	子育てグループ in 高津	240	高津市民館
宮 前	平成23年11月19日(土)	みやまえ子育てフェスタ	1,100	宮前市民館

多摩	平成23年9月18日(日)	たまたま子育て祭り	4,700	多摩区庁舎
麻生	平成23年9月10日(土)	案山子まつり	200	麻生区古沢の田園地帯

・ 人形劇

文化的な行事を提供することによって、地域の子どもたちの情操を高めていくことを目的に人形劇の上演を実施しました。

区	実施年月日	開催場所	劇団	参加人数
川崎	平成23年8月4日(木)	川崎市福祉センター	劇団 CAN 青芸	129
幸	平成24年3月17日(土)	幸市民館 大会議室	劇団 風の子	137
中原	平成23年8月3日(水)	井田小学校特別活動室	劇団 CAN 青芸	135
高津	平成23年10月15日(土)	末長小学校 体育館	ビッグリバーサイド商舎	87
宮前	平成23年7月27日(水)	土橋小学校	劇団おと絵がたり	174
多摩	平成23年8月2日(火)	中野島小学校特別活動室	劇団 CAN 青芸	141
麻生	平成23年8月1日(月)	王禅寺中央小学校特別活動室	劇団 CAN 青芸	160

・ 実践集の発行

今年度も各こども文化センター及び各わくわくプラザで実施した主な活動を広くPRすると同時に、館相互の事業取り組みの参考とするために実践集を作成します。発行は平成24年8月を予定しています。

セ 体験学習の拡充

市民活動団体等の協力のもと、様々な体験活動を企画・実施し、子どもたちの豊かな人間形成を図りました。

実施した主なものとしては、科学実験教室・読み聞かせ・伝承遊び・音楽コンサート・食育講座などがあります。

ソ 地域ボランティア等との協働推進

「地域の文化伝承」「技能」「知識」を持つ人々を講師として起用し、通常の活動の中では経験できない体験の機会を提供することによって児童の情操を高め、創造性豊かな心、共感する心を育てることを目的に様々な活動を実施しました。

タ 施設修繕・環境整備の推進

日常の施設点検を密に行い、転落防止柵の設置・破損個所の修復・遊具等の整理及び飛散防止蛍光灯の設置等、施設の安全管理に取り組み、畳の張り替え及びエアコン清掃等、衛生面にも配慮し、快適で利用しやすい施設作りに努めました。

チ 財政基盤の安定確保と円滑な事業運営

指定管理業務の円滑な運営のため、特別費用準備資金等取扱規則に基づき、特別費用準備資金や資産取得・改良に充てる資金を計画的に保有し、財政基盤の安定確保を図りました。

(2) 子育て支援・わくわくプラザ事業

川崎市からの委託業務として、保護者の就労等により午後6時までに児童の迎えが難しい保護者のため、子育て支援の視点から午後7時までの児童の居場所と安全を確保する「子育て支援・わくわくプラザ事業」を、全わくわくプラザにおいて実施しました。

平成23年度は1,844名が登録し、延べ106,662名の児童の利用があり、受託施設が5減となったにもかかわらず、利用は増加傾向にあります。

児童の登録及び利用状況の推移

年度	登録児童数		延べ利用人数		一ヶ月平均利用人数	
21年度	1,581	(48)	95,637	(4,044)	7,970	(337)
22年度	1,774	(61)	106,453	(4,743)	8,871	(395)
23年度	1,844	(66)	106,662	(5,182)	8,889	(432)

*登録児童数は3月現在の数 * () 内は特別な支援を必要とする児童数

(3) 地域子育て支援センター(児童館型)事業

川崎市がこども文化センターにおいて実施した地域子育て支援センター事業(児童館型)の運営を平成20年10月に4カ所、平成21年7月に8カ所、平成22年7月にさらに8カ所受託しました。平成22年度及び平成23年度は20カ所で週3日(9:30~12:30)、「ふぁみいゆ」の名称で開設しました。

乳幼児親子の交流の場として、子育てに関する相談・援助の場所として、地域の子育て情報の提供の場として、多くの利用があり定着してきました。

また利用者のご意見も取り入れた行事(親子リトミック・工作・誕生会・食育講座・歯科衛生指導・身体測定等)にも、多くの親子の参加がありました。

平成23年度の利用状況は以下のとおりです。

区	地域子育て支援センター	児童	大人	合計人数
川崎	ふぁみいゆ殿町	1,567	1,522	3,089
	ふぁみいゆ田島	876	757	1,633
	ふぁみいゆ浅田	3,093	2,578	5,671
幸	ふぁみいゆ南河原	3,546	3,374	6,920
	ふぁみいゆ幸	1,862	1,744	3,606
	ふぁみいゆ小倉	2,375	2,028	4,403
中原	ふぁみいゆ新丸子	3,930	3,622	7,552
	ふぁみいゆ平間	1,932	1,758	3,690
	ふぁみいゆ大戸	2,510	2,249	4,759
	ふぁみいゆ宮内	2,149	1,966	4,115
高津	ふぁみいゆ東高津	2,004	1,818	3,822
	ふぁみいゆ子母口	1,922	1,649	3,571
宮前	ふぁみいゆ宮崎	3,700	3,548	7,248
	ふぁみいゆ野川	2,154	2,032	4,186
	ふぁみいゆ平	1,810	1,632	3,442

多摩	ふぁみいゆ拵形	2,019	1,875	3,894
	ふぁみいゆ中野島	2,886	2,703	5,589
麻生	ふぁみいゆ千代ヶ丘	2,263	2,108	4,371
	ふぁみいゆ柿生	1,084	1,000	2,084
	ふぁみいゆ片平	2,076	1,942	4,018
合 計		45,758	41,905	87,663

(4) その他（教育実習等）

平成23年度は、実習生とインターシップにアンケートを実施し、こども文化センターの運営に意見を生かす工夫をしました。

ア 児童館教育実習生の受け入れ

平成23年度は、実習生12人を12館のこども文化センターで受け入れました。

アンケートによると、保育士・教員など、子どもに関する仕事に就くことを希望しており、社会人として働くことのイメージ作りもできたようである。「子どもの居場所」「地域との協力」「中高生の居場所」「母親の交流場所」など理解を示し、楽しい実習であったと記されています。

受け入れ一覧は次のとおりです。

学 校 名	人数	こども文化センター	期間
鎌倉女子大学	3	下平間、旭町、新丸子	11日
目白大学	4	日進町、南河原、高津、錦ヶ丘	11日
駒沢女子短期大学	1	宮崎	12日
有明教育芸術短期大学	1	渡田	12日
田園調布大学	1	梶ヶ谷	12日
町田福祉保育専門学校	2	虹ヶ丘、柿生	10日

イ インターンシップの受け入れ

平成23年度は7名のインターンシップを5館のこども文化センターで受け入れました。

アンケートによると、こども文化センターでは「子どもたちの居場所を作ろうとしている館長・職員・パートナーの奮闘している姿に感銘した」、わくわくプラザでは「子ども本来の姿に元気もらった」等の感想があり、業種や職種についての理解が見られます。

受け入れ一覧は次のとおりです。

学 校 名	人数	こども文化センター	期間
大阪体育大学	1	白幡台	12日
相模女子大学	1	百合丘	21時間
自由が丘産業能率短期大学	1	東高津	1日
筑波大学	4	小倉、幸	1日

ウ 職業体験の受け入れ

平成23年度は28名の生徒を3館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ一覧は次のとおりです。

学校名	人数	こども文化センター	期間
県立菅高等学校	27	菅、南菅	1日
県立川崎北高等学校	1	大戸	5日

エ 高校生ボランティア（学校依頼）の受け入れ

平成23年度は11名の生徒を4館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ一覧は次のとおりです。

学校名	人数	こども文化センター	期間
県立大師高等学校	2	渡田、藤崎	35時間
県立麻生総合高等学校	1	東百合丘	1日
県立菅高等学校	8	南菅	1日

オ 教員研修「体験活動」の受け入れ

平成23年度は、9名の教員を5館のこども文化センターで受け入れました。
受け入れ一覧は次のとおりです。

学校名	人数	こども文化センター	期間
県立新城高等学校	1	新城	5日
県立菅高等学校	5	南菅	3日
県立厚木商業高等学校	1	菅	3日
中原養護学校	1	井田	5日
県立川崎北高等学校	1	大戸	5日

カ 事故報告

過去3年間のわくわくプラザにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	21年度	22年度	23年度
4	20 (16)	38 (9)	43 (13)
5	21 (3)	23 (6)	14 (4)
6	31 (10)	27 (8)	21 (7)
7	24 (5)	24 (4)	17 (7)
8	23 (6)	16 (4)	17 (5)
9	12 (3)	7 (4)	21 (6)
10	17 (3)	14 (3)	20 (9)

1 1	8 (0)	2 0 (7)	1 9 (7)
1 2	1 3 (2)	1 3 (4)	1 6 (4)
1	8 (2)	5 (0)	7 (1)
2	1 5 (5)	4 (0)	4 (2)
3	1 2 (0)	1 6 (4)	2 0 (4)
計	2 2 2 (4 8)	1 9 7 (5 0)	2 1 7 (6 7)

() 内は 4 日以上通院の事故件数

キ 騒音差止等請求事件について

平成 22 年 9 月 3 日付けで、野川こども文化センターに隣接して居住する住民から、川崎市及び同施設の管理・運営を受託する当財団を被告とし、同センターのプレイパークで活動する子どもたちの発する声や音を騒音として、川崎市と共に提訴され、民事裁判となっています。

当財団では、顧問弁護士を被告の訴訟代理人として委任し、平成 23 年度末現在、9 回目の弁論準備期日（平成 24 年 3 月 22 日開催）を終えたところです。

3 財団の運営

(1) 公益財団法人としての執行体制の強化

経営企画力の向上に向けて、事業計画の進行・進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じ、経営基盤の強化による総合力の向上を図りました。

また、多様な雇用形態に対応するための柔軟な労務管理の推進や、財団全体の業務改善に取り組み、効率的・効果的な事業・組織等の体制整備を図るとともに、職員のスキルアップはもとより、資質の優れた人材の育成・確保に取り組みました。

経理・会計処理では、公益法人会計基準(20 年改正基準)に準拠した会計処理を確実に行うとともに、新たに定めた監事監査規程に基づく決算監査を実施するなど、新制度における法令・規則等の遵守を徹底して、経理・会計処理の適正執行に努めました。また、財政基盤の安定確保と円滑な事業運営を図るために、承認を受けた特別費用準備資金の積立を行いました。

(2) 公益財団法人としての計算書類等の作成

公益法人としての最初の事業年度に（平成 22 年度(7-3 月期)）係る計算書類等を作成し、5 月 13 日の監事監査を経て、5 月 24 日の第 1 回理事会で承認を受けました。その後、6 月 13 日の第 2 回評議員会（定時評議員会）で承認されましたので、行政庁（神奈川県）に、6 月末までに電子申請により届出を行いました。なお、計算書類等については、事務所に備え置くとともに、貸借対照表を事務所の公衆の見やすい場所に掲示しました。

また、平成 24 年度事業計画書等については、3 月 15 日の第 3 回理事会で承認を得て、行政庁には、3 月末までに電子申請により届出を行いました。

Ⅲ 理事会・評議員会に関する事項〔平成23年度〕

1 理事会

会議名	日程	議案・報告	会場
第1回	平成23年 5月24日	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度(7-3月期)事業報告及び決算について 2 平成23年度第2回評議員会の開催について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規則の改正について 2 年度協定書の締結について 	かわさき市民活動 センター会議室
第2回	平成23年 11月24日	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 変更協定書の締結について 2 規則の改正について 3 平成23年度11月補正予算について 4 特定費用準備資金の保有について 5 平成23年度第3回評議員会の開催について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成23年度上半期の事業報告について 2 騒音差止等請求事件の進捗状況について 3 職員採用試験及び昇任試験について 4 全市的イベントの実施予定について 	かわさき市民活動 センター会議室
第3回	平成24年 3月15日	<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規則の改正について 2 平成23年度3月補正予算について 3 経営改善計画について 4 平成24年度事業計画について 5 平成24年度予算について 6 内部管理体制の整備について 7 平成24年度第1回評議員会の開催について <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 騒音差止等請求事件の進捗状況について 2 全市的イベントの実施結果について 3 職員の処分について 	かわさき市民活動 センター会議室

2 評議員会

会議名	日程	議案・報告	会場
第1回	平成23年 4月11日	報告 1 平成22年度(7-3月期)3月補正予算について 2 規則の制定について 3 平成23年度事業計画について 4 平成23年度予算について 5 監事監査規程の制定について 6 騒音差止等請求事件の進捗状況について 7 全市的イベントの開催結果について 8 青少年事業課職員の昇任試験について	かわさき市民活動 センター会議室
第2回	平成23年 6月13日	議案 1 平成22年度(7-3月期)事業報告及び決算について 報告 1 規則の改正について 2 年度協定書の締結について	かわさき市民活動 センター会議室
第3回	平成23年 12月15日	報告 1 変更協定書の締結について 2 規則の改正について 3 平成23年度11月補正予算について 4 特定費用準備資金の保有について 5 平成23年度上半期の事業報告について 6 騒音差止等請求事件の進捗状況について 7 職員採用試験及び昇任試験について 8 全市的イベントの実施予定について	かわさき市民活動 センター会議室